

コース 15 こうさぎさん 光兎山

リーダー CL E/S SL N/S
 実施日 平成23年6月18日(土) 天候 曇り
 参加者 17(男性 5 女性 12)
 グレード C上
 コースポイント



ポイント	到着時間	出発時間	備考
区役所前		5:55	
道の駅関川	7:20	7:30	休憩
中束登山口	7:35	7:55	ストレッチをしてから出発
千刈分岐	8:44	8:50	
雷峰	10:35	10:45	山頂へ向かう登山道ヒメサユリ満開
光兎山々頂	11:55	12:45	ガスっていて何も見えず残念。
雷峰	13:45	14:00	
中束登山口	15:40	15:50	
道の駅関川	16:10	17:00	道の駅関川 ゆーむで入浴
区役所前	18:30		

山行等概要(幹事のコメント)

- 天候曇り、梅雨に入っでの山行雨が降らないだけでも良しとする。
- 1週間前の下見時ヒメサユリ8分咲きで花が有るか心配でしたが雷峰を越してから登山道の両脇にヒメサユリが満開で綺麗でした。
- 長丁場なので全員完登を目指し、標準タイムより時間を掛け全員登りました。
- 山頂は狭く多数の登山者で賑わっていました。
- 山頂に着く頃ガスが湧き上がり周りが何も見えずに残念でした。



「光禿山に登って」

(1475) A/W

国道 290 号線から、重なり合う山々から、独立して正三角形の山容を見せて、さらに月の光の中から兎が降りたようなネーミングといい、早速と申し込んだのだが、評判を聞くと、「意外ときつい」とか、「アプローチが長くて」とか、しり込み加減になっていた。

登山口から観音峰まで、梅雨にはいったのだが、晴れており、木漏れ日の遊歩道にぴったり。登り始めは赤松の林、立派な大木が整備されて、松葉の落ち葉をふみしめ、30 分位続いた。すると、ブナの林になり、美しい木肌と緑の葉陰、降り積もった枯葉、さわやかな空気、足元はあっちこちに 1 本あるいは群生してギンリョ



ウソウがすくくと立っていた。俗名ユウレイソウと聞いて、良いイメージでなかったが、銀の鐘のようなかわいらしさもある。快調な足取りでおしゃべりをしながら、観音峰に到着した。



観音峰から見た光禿山（左奥）

木立の中から、これから向かう光禿山まで登山道がまっすぐ

ぐみえた。リーダーが「これからが山登りです。ゆっくり行きますから。」という励ましの指示。「え！もう一つの峰（雷峰）を超えてからさらに登るのか」恐れをなした。出発すると、



ヒメサユリが迎えてくれた。濃いピンクから白に近い淡いピンク、グラデーションのありさま。満開の同じ花なのだが、一つ一つが美しい。この可憐なお姫様は厳しいところが好きなようで、ガレ場とか狭い稜線とか、急な岩場などに



頂上直下の急登

群生したり、美しい色をみせたりしている。歩きながらは危険なので、立ち止まってゆっくりと見なければいけない。そこで呼吸を整えて。

所々、笹やぶの切れるところでは、曇り空になっていたが、眺望もよく、深い谷を覗くと緑のじゅうたんやヤマボウシの白い花がくっきりとした配色を見せていた。ヒメサユリの可憐なピンクを彩って、赤い山つつじ、ナナカマドの白、ウラジロヨウラクのかんざしの花をゆらしていた。花をみながら、ゆっくりと注意深く、まるで直角に見えるような急な所を登った。

頂上は光兎神社の小さな社があり銀とガラスの兎が奉納されている。ガスが広がって何も見えなくなっていった。下りは苦手なのでより一層の注意が大事なのだが、花に見とれてしまう。

観音峰まで汗びっしょりになりながら、無事到着、緊張感もあってへたばってしまった。リーダーが「いままではB上の歩きだが、これからC上の歩きに」という号令では、へたっていたが、「3時45分までに登山口に着けば、風呂には入れるが、それより遅いと時間的に無理だ」という説明に、風呂というニンジンをぶら下げた馬のように、疲れた体にムチ打った。途中、雨音が聞こえたが、ほとんど雨に当たらない。ブナがしっかりと受け止めてくれていた。ブナの許容力に感動。



3時40分に登山口に到着。汗だくの山行には風呂が最高のごちそうでした。

お世話になりありがとうございました。



雷峰にて下山休憩（満面の笑顔）

ヒメサユリの饗宴

